

CLASS1

ARCHITECT

一級建築士に直接お届けする建材フリーマガジン。

VOL.01
創刊号

建築家 小堀哲夫

働く場に
イノベーションを
起こす建材とは。

NICCA イノベーションセンター

VELUX®

VELUX ACTIVE
with
NETATMO



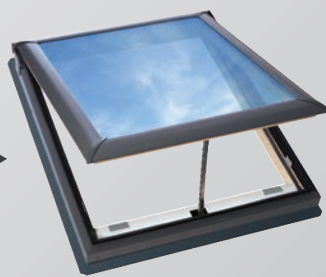
VELUX が起こす
天窓のIoT革命。

お部屋の空気を自動でコントロール。

地域ごとのウェザーデータを反映し、
温度、湿度、空気の淀みといった室内
環境の変化に応じた天窓開閉の自動
制御を可能にしました。



AUTO CONTROL



VELUX®



VELUX ACTIVE
with
NETATMO
¥33,000 (消費税別)
2019年4月発売予定

VELUX ACTIVE App Store / Google Playで配信中。  

スマホアプリと連携でいつでもどこでも天窓を遠隔操作可能。
便利な音声操作と共に、室内環境をスマホで確認できます。

VELUX 日本ベルックス株式会社

東京都渋谷区千駄ヶ谷1-23-14
TEL 0570-00-8141
FAX 0570-00-8142
<http://www.velux.co.jp/>



その佇まいより
古き良き時代を
想ふ――。



M71#

マツ浪漫ドアは
信州あづみの松を使い、
その時代を想う
古くて新しい室内ドア。
その時代を想うべく、柵は柵目、
鏡板は横板目をデザインに採用。
木目を活かした仕上げも良し、
塗りつぶしても良し。
あなたが想う古き良き時代を
創造してください。



Prairie Homes
プレイリーホームズ株式会社

www.prairie.co.jp

名古屋 〒461-0004 名古屋市中区東3-7-14 MYビル7F
TEL: 052-930-7855 FAX: 052-930-7856
松本 〒390-1131 長野県松本市南9-5031
TEL: 0263-50-3911 FAX: 0263-50-3912

マツ浪漫ドアの他にも、
プレイリーホームズでは開けるのが楽しめる
室内ドアを多数取り扱っています。

せっこうボードで
角の丸いコーナー、作れます。

共に築み、明日を創る。
チヨウサウテ

コーナーボードは、せっこうボード一体型の
コーナー材を貼るだけなので、
パテ処理不要でカンタンに美しく
ひび割れにくいコーナーが作れます。
(一部にけい酸カルシウム板を使用しています)

コーナーのRは2タイプ
2R 15R

3年連続受賞!

2016年 HEADベストセレクション賞 受賞
第6回 2016年度 HEADベストセレクション賞 「優れた建材・製品」 10品 受賞

2017年 グッドデザイン賞 受賞
GOOD DESIGN AWARD 2017

2018年 キッズデザイン賞* 受賞 ※15Rのタイプのみ受賞
KIDS DESIGN AWARD 2018

CORNER BOARD 省令準耐火適合商品
コーナーボード

KRONOTEX <http://kronotex.jp/> Made in Germany.

KRONOTEXフロアが誇る最高級床材。

MAMMUT マムート
PRICE ¥6,500/㎡ ¥21,450/坪

本物の天然木のように、ダイナミックな質感。
耐久性、耐熱性において高い品質を兼ね備え、
床から高級感のある空間を創り出す。

耐衝撃性 [C3]、耐摩耗性 [AC5] を誇る耐久性。煙草の火でも焦げにくい、難火性。

写真内製品: MAMMUT D2801 Capital Oak Medium

Contact Us
カタログ請求・お見積もり
お問合せ

〒381-0024
長野県長野市南長池280-8
TEL 026-267-0311
FAX 026-267-0312
Mail: info@kronotex.jp (高見澤)

CLASS1 ARCHITECT

一級建築士に直接お届けする建材フリーマガジン。

主役は建材。

建築家が選りすぐりの建材を
アクティブに紹介する
建材専門誌

CONTENTS

05 働く場に イノベーションを起こす建材とは。

建築家 小堀 哲夫 NICCA イノベーションセンター

織部製陶株式会社 「オーダーメイドタイル」
株式会社SHY 「ZIPrail® Screen」
安東陽子デザイン 「テキスタイル」

12 ARCHITECT'S Q&A Vol.01

聞きたくても聞けない、建築家が出合った特別な建材を一挙ご紹介!

15 モニター建材 第1回

新製品を中心とした無料のモニター企画

17 新たな地域建材と出会う、見つける。

LOCAL建材 Vol.01

建材としての「和紙」



ARCHITECT'S PROFILE



建築家 小堀 哲夫

略歴

株式会社小堀哲夫建築設計事務所代表
法政大学兼任講師、名古屋工業大学非常勤講師
1971年 岐阜県生まれ
1997年 法政大学大学院工学研究科 建設工学専攻 修士課程修了
1997年 株式会社 久米設計入社
2008年 株式会社 小堀哲夫建築設計事務所設立
2014年 法政大学デザイン工学部建築学科 兼任講師
2018年 名古屋工業大学 非常勤講師

主な作品

ROKI Global Innovation Center -ROGIC-
昭和学園高等学校
南相馬市消防・防災センター
NICCA イノベーションセンター
梅光学院大学

受賞歴

2015年 AACA(日本建築美術工芸協会)賞優秀賞
日事連建築賞「国土交通大臣賞」
中部建築賞
BCS(日本建設業連合会)賞
日本建築士会連合会賞優秀賞
2017年 JIA日本建築大賞
日本建築学会賞作品賞
2018年 RIBA International Prize 2018's Longlist
ABB LEAF Awards 2018 Shortlist
中部建築賞入賞
他多数受賞



働く場に イノベーションを 起こす建材とは。

今回、小堀氏が手掛けたのは、福井県に本社を構える日華化学株式会社の研究所「NICCA イノベーションセンター(以降、NIC)」。同社では、繊維を中心とした化学製品の開発から販売までを行う。日華化学では、NICの建設に際し、働き方の意識改革を目的とした、社員主体のワークショップが実施された。小堀氏が設計にあたり、このワークショップから導き出したテーマは2つ。それは「パズルのような場」と「光の降り注ぐサンルーム」だ。曇天が目立つ福井の天候でも、心地よく光を感じられる空間があり、その中で新しい意見が飛び交うような、活発なコミュニケーションが生まれる場を目指したという。

昨年末には同建築で「第50回中部建築賞」に入賞。小堀氏は「50回目という記念すべき回に受賞頂けたことをとても嬉しく思います。この賞は施主、設計者、施工者の3者に対し送られるものなので、みなさんのチームワークやベクトルが揃った結果です。」と感謝の気持ちを語った。次ページからは、そんなNICで使用した建材を取り上げたいと思う。



上/NIC外観

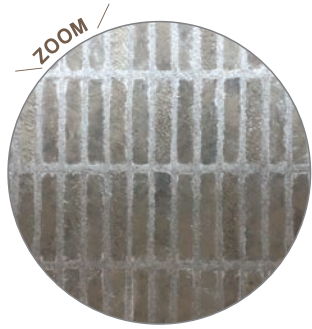
NICCA イノベーションセンター

〒910-8670 福井県福井市文京4-23-1
設計 / 小堀哲夫建築設計事務所 2017年竣工
撮影 / 新井隆弘

働く場にイノベーションを 起こす建材とは。

NICに使用された建材の中から、設計者である小堀哲夫氏に
選りすぐりの建材を3つご紹介いただきました。さらに各
メーカーさんの「ものづくりの舞台裏」にも迫ります。

INNOVATION MATERIAL 01 オーダーメイドタイル



なぜ、採用したの？ ARCHITECT'S VOICE

NICでは、吹き抜けにすることにより、天井から差し込んだ自然光が大きな壁を伝って1階まで降りて来るようなイメージで設計しました。あくまで自然と共存できるような空間づくりを考えていたので、壁も人工的なものではなく、自然的な素材で光を取り込みたかったんです。そこで、織部製陶さんの手づくりをメインとした、温かみのあるタイルを取り入れました。

手づくりにかける情熱

まず職人が、選んだ土をところてん式に型から押し出し、一つひとつ手でテクスチャーをつける。そしてそれを窯で焼いていくという、とても手間がかかる作業を経てつくられるのが、このオーダーメイドタイルだ。時代と共に機械化が進むなかで、今もなお、職人が手作業でタイルをつくるということは非常に珍しい。また製品だけでなく、色サンプルまでもが手作業であるというから心底感心してしまう。一般的なタイルメーカーであれば、機械生産の既存品から製品を選択することが多いが、織部製陶では一つの製品に対し、色味の調整や土の配合など細かいオーダーに対応するというスタイルを貫いているのだ。その手づくりにかける情熱が、これからも受け継がれていくことを願いたい。

人と自然が生み出す価値

タイルの状態が分かるのは、窯から出てきたとき。焼きの風合いに留まらず、季節によって色合いに変化が生じる等、タイル一つひとつが違う表情を持っている。つまり、このタイルには自然の力が込められているのだ。こうしたタイルの敷き詰めを見たときに、全体によいムラが生じ、素材感とデザイン性が生まれる。これは機械的にできるものではなく、人と自然の共同作業だからこそ、できることなのではないだろうか。良質な天然素材と職人から生まれる絶妙な共作を、是非体感していただきたい。

3つの開発秘話

メーカーさんへ聞いた、



織部製陶株式会社
古澤 竜男 さん

01 オーダーメイドから生まれる “織部らしさ”

織部のタイルのほとんどが、手作業のオーダーメイド品です。それには理由があって、設計者や施主のイメージをゼロからイチへと形にすることで、その建築だけに合った「ただ一つの素材」を生み出したいという想いがあるからです。「これは手作業だからこそ、叶うことではないだろうか」と、機械化とは逆の手作業に重きを置きました。絶妙な色の配合や、焼きが生むタイル1枚1枚の素材感や味のある色ムラには、職人の人間味が滲みます。それらのタイルが敷き詰められたときに、建築物の個性として独特の風合いが醸し出されるのが織部らしいと感じています。

02 色合い調整における工夫

タイルは「焼きもの」であるため、理想の色に確実に仕上げていくのはすごく難しいんです。今回のNICでは、黄みを除いたベージュグレーという要望を受けていたのですが、実際に焼いてみると、どうしても黄みがかったものが出てきてしまう。こうしたものをどれだけ要望に近付けられるか。その歩み寄りに、職人の試行錯誤が詰まっています。例えば、色の原料調合にも工夫が必要なのはもちろん、窯に入れる際のタイルが詰まれた台車の位置なども関係します。タイルの色味の変化は些細なことからも影響を受けるので、本当に繊細なんです。だからこそ、織部の職人にとっては、焼く環境により色味がどう変化するのか、個人の経験と想像力が最も大事になってくると思います。

03 経年変化を風合いに 変換するタイル

一般的に、塗装や吹き付け仕上げの外壁は劣化してしまうのですが、タイルには耐候性があり、何年経っても色の変化がないのが特徴です。そのため、タイル自体は比較的、外壁に適した素材であると感じています。特に織部のタイルは、焼きものであることに加え、面状の荒いハンドメイド加工が施されていることで、味わい深い風合いをも感じられます。そして、それらは長い年月を重ねた状態で、タイル自体のビジュアルをほぼ損なうことなく、風合いを保てるといえます。織部の強みである手作業から生まれた特色は、一般的に行われるメンテナンスのわずらわしさを抑えることに繋がるのではないかと感じています。



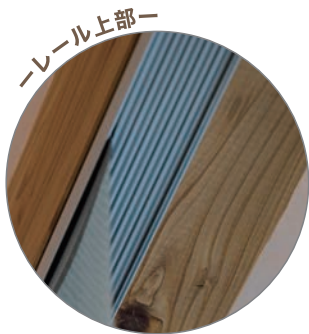
織部製陶株式会社

織部製陶株式会社

〒160-0008
東京都新宿区四谷三栄町2-5
Eフラットビル1F
TEL 03-3359-9461
FAX 03-3359-9450
<http://www.olivebricks.co.jp>



お話を伺ったのは...
株式会社SHY
林口 典雄 さん



なぜ、採用したの？
ARCHITECT'S VOICE

ZIPrail® Screenは事務所のスタッフが見つけたものなのですが、機能が求めているNICのイメージにピッタリでした。これは会議室と実験室の間仕切りのレールとして使用したのですが、布の開閉も静かなうえにヒダもできないため、とてもシャープな印象になります。また、ロールスクリーンのようにチェーンを巻く手間もなく、簡易的に操作ができることも魅力でした。

ZIPrail® Screenの特徴

- ① **コンパクトな収納性**
とにかく場所を取らない抜群の収納性と、1本6連のレールにスクリーンが6枚収められているというコンパクト感が魅力。
- ② **シンプルなデザイン性**
とてもシンプルなデザインが特徴。吊るす素材にも自由度を与え、どんな場所にも馴染んでくれる。
- ③ **リーズナブルな間仕切りシステム**
襖のような間仕切り製品と比べると、とてもリーズナブル。ファスナーを付けたスクリーンをレールに通し、それを引くことでフラットな仕切りが出来上がる。

日本人の感性に合ったアイデア商品

ZIPrail® Screenによるスクリーンの動きがとてもスムーズで、引けばすっと滑らかな動きを見せてくれる。例えるならば、襖と屏風を融合させたような、日本人の感性に寄り添った一品だ。襖は固定化された扉のような側面を持ち、屏風は持ち運びがしやすく軽い。ZIPrail® Screenには、そんな2つの特徴が共存している。また和室では、空間をなるべく「壁」で区切らずに、取り外しが可能な襖や屏風で仕切られていることが多い。そのため、隣室の気配や庭の情緒を、仕切りを通して感じることができる。横に引くだけで空間を仕切りつつも、スクリーンの向こうの気配を感じ取ることができる。この、仕切ることによって間接的に生まれる「禁煙気」は、日本人の気質を想起させるのではないだろうか。

“窓際イメージ”からみた 逆転の発想

「窓際」というと、昔から「窓際族」という言葉があるように、良くない関係性の象徴であったりと、一般的にもあまり良いイメージが浸透していないように感じます。ですが、少し視点を変えると「窓際」には見落とされがちの魅力が詰まっていることに気が付きます。例えば、窓際に陽差しが降り注げば、それだけでその空間はぼかぼかと温かく、心地よい雰囲気へと変わります。そのように、外からみた窓際の雰囲気によって、建築物全体の印象が変わることもあるのではないのでしょうか。「窓際のマイナスイメージをプラスに変えたい！」そんな想いが、私のモノづくりの出発点ですね。

発想源は “子供の事故を無くしたい”

通常、ロールスクリーンを開閉させるときの動きは、縦ですよ。ところが、このZIPrail® Screenは、横方向に動きます。そんな前例のない製品に挑んだのは、「子供の事故を無くしたい」という身近な想いからです。子供が従来のロールスクリーンで遊んでいると、大抵の親はスクリーンの落下やチェーンでの事故を懸念して、子供を止めようとするのではないのでしょうか。ですが、横に動くものであればチェーンもなく、身体を挟んでしまうものもないため、危険性がぐっと低くなる。「子供の事故を無くしたい」という想いから生まれたこの製品が、今後、様々な人の生活を安全に送れるものとして、役立ってもらえたら嬉しいですね。

設計者視点でみる 製品の可能性

一般的にロールスクリーンの素材は、布やポリエステルといったイメージがあるように思います。ですが、このZIPrail® Screenは、ファスナーと弊社のレールさえあれば、今までにない素材さえも吊るすことができるのではないかと考えています。過去にはホワイトボードを使用時にのみ吊って使用された事例もありますし、襖を吊りたいとの依頼を受けたこともありました。今回のNICでは小堀さんのアイデアによって、レールを30m連結し、それを1本のレールとして使用していただきました。このように設計者が自由な発想を提案してくれることは我々にも、良い刺激を与えてくれます。そうして、製品の可能性が広がっていくなかで、今後も新たなアイデアが豊富に生まれてくることを期待しています。

株式会社SHY

〒101-0026
東京都千代田区神田佐久間河岸46-3
UFビル5 7階
TEL 03-5822-2282
FAX 03-5822-2283
<http://www.shyzip.com/index.html>





なぜ、採用したの？
ARCHITECT'S VOICE

今回のこだわりは、「光を空間に導く」「直射を遮る」「光を投下させて煌めきをつくる」の3つでした。それらを踏まえ、「光の拡散」をキーワードに、空間の仕上げ材としてテキスタイルを使用したいと思ったのですが、市販のカーテンではイメージが違出し、どのようなものがフィットするか考えていました。そこで、空間制作から生地のテクスチャーまで一緒に考えていただける方として、安東陽子さんをお願いしました。



重ねたテキスタイルが生み出す、新しい価値

今回のデザインのなかで、「安東さん流石だな」と感じた、あるアイデアがあったという。それは、布と布を接着するというもの。これにより、生地に張りを持たせ、光の反射の強度を増幅させたのだ。また、布を二重にすることで木目調の柄が表現できたため、「これはいいね」と安東さんとも合意し、使用を決めたのだという。実験室の間仕切りとして用いたテキスタイルは、何重にも重ねたものをSHYさんのZIPrail® Screenに掛け使用した。布はあえて色違いのものを貼り合わせているため、表裏で違う色が出現するのもポイントだ。「安東さんからの“重ねる”アイデアによって、新たなデザイン価値が生まれたことに、心から感謝したい」と小堀氏は笑顔で語ってくれた。



安東陽子デザイン

〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷3-55-12
ヴィラ・パルテノン5C
TEL 03-6434-0413
FAX 03-6434-0423
<http://www.yokoandodesign.com/>

2つの開発秘話

メーカーさんへ聞いた、

01 光の粒から煌めきをつくる

NICでのテーマである「光」をどうしたら活かすことができるのか、そこにいくつかの工夫を凝らしました。そのなかでも特にこだわったのが、布に円状の穴をランダムに開けたことです。これはテキスタイルが光を受けたときに、煌めきをつくるため。ランダムといっても、ただ闇雲に開けるのではなく、基本のパターンを4種類つくり、穴が重ならないように繰り返し並べました。そうしてできた光の粒の移動が、煌めきに繋がればと思ったためです。その穴も、初めは化学記号のような形をイメージしていましたが、実際現場で見たときに、シンプルな円を隣り合わせる方が、より化学記号のように見えて良いと感じ、円状にしました。こうして工夫を詰め込んだテキスタイルが、NICの光の表情を豊かにするものになれば嬉しく思います。



お話を伺ったのは...

テキスタイルデザイナー
安東 陽子 さん

02 空間とテキスタイルの関係性

テキスタイルを制作するときに、空間との関係性で重視していることがあります。それは、建築家の考え方と空間から、イメージを受け取るということです。あくまで空間ありきで、「素材との相性は良いか?」「納めたときのバランスはどうか?」などを想像して制作していますね。また、テキスタイルが上手く納まることで、良い影響を与え合う関係性になればいいなと思っています。空間の印象も変わり、テキスタイル自身も表情を変える。両者がお互いの雰囲気を変化させ合うようなイメージです。こうした関係性から、テキスタイルはその存在を主張することなく、でもそこに在ることで空間全体の調和を取る力を持っているのだと感じています。

ARCHITECT'S

Q & A

vol.01

聞きたくても聞けない、建築家のお気に入り建材。そんな“ここだけの話”建築家が特別に語ってくれました。

今回のゲスト 建築家 /

小堀哲夫 氏



Q 最も思い出深い建材は何ですか?

A 光膜天井



皆の技術の融合作品

光膜天井は、天井の膜に光を通して空間に拡散する、という仕組みの天井です。「なぜ思い出深いのか?」というところ、トニーさんの社長である、島田さんたちとつくった建材だからです。ゼロからイチをつくる挑戦の中で、「自分が思い描く光を扱うにはどういった天井が良いのか?」「どういった膜が必要なのか?」と、常に頭を悩まされましたね。そんなとき、車の部品にも使用される、“あるフィルター”からヒントをもらうことになりました。そのフィルターは見た目は和紙に近いのですが、吸音性と太陽光を拡散する性能を持っていることが分かったんです。「この性能は使える!」と、皆でこれを使用した実験を何度も繰り返して、ようやく納得のいくものが出来上がりました。

この光膜天井は、ROKIグローバルイノベーションセンター(浜松)で使用しているのですが、太陽光を拡散してくれるため、外の明るさがそのまま空間へと移される。だから、昼間の室内に照明は必要ありません。ROKIでは人工照明ではなく、自然光を取り入れることがテーマだったので、まさにテーマにピッタリの建材となりました。光膜天井は、開発メンバーの知見を集結させてできた建材。例えるなら、エンジニアリング建材みたいな感じ。もともと建材ではないフィルター素材との出会いをきっかけに、皆の技術を足して出来上がった、とても思い出深い建材です。

5 小堀哲夫氏が選ぶ 5つの建材

思い出深い | 光膜天井

挑戦 | 粉体塗装

特殊 | エステックウッド

技術 | スマートルーバー

コスパ | StoThermClassic
(外断熱システム)



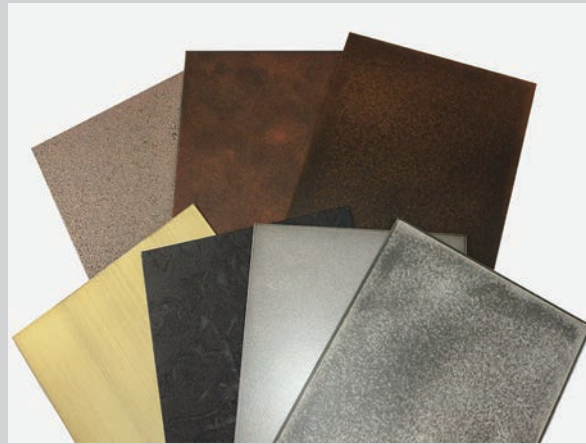
株式会社トニー
〒242-0001
神奈川県大和市下鶴間2767-34
TEL 046-271-3222 FAX 046-271-3223

Q 今、挑戦中の建材は何ですか？

A 粉体塗装

環境に優しい多様な質感を実現

粉体塗装というのは、粉状の塗料を静電気力で付着させ、オープンでバイクすることで硬化させる塗装方法です。日本での塗装は「溶剤塗装」という、かなり毒性の高い方法が一般的ですが、粉体塗装はシンナーのような溶剤を全く使わない塗料。臭いがなく、耐候性が高いのが特徴です。それに、粉体塗装はマットな質感からざらつきのある質感まで、様々な表現ができる。これは一般的な塗装法ではできないので、粉体塗装ならではの良さだと思います。今回お願いしたカドワキカラーワークスさんでは、これらの特徴に加え、設計者や施主の理想とする質感を正確に再現してくれる技術がある。また、カドワキさんは国内に工場を持っているため、打ち合わせ内容をスピーディーに反映してくれる点も大きなポイントです。僕の知る限り、日本でこの塗装法を行っている会社は多くはないと思います。だからこそ、この粉体塗装を使用した、現在手掛けている建物の竣工が待ち遠しいですね。



株式会社カドワキカラーワークス
〒230-0071
神奈川県横浜市鶴見区駒岡2-17-30
TEL 045-572-1622 FAX 045-572-1097



【販売元】 株式会社ニュースト
〒125-0062
東京都葛飾区青戸8-3-5 MK東京ビル2階
TEL 03-5650-1771 FAX 03-3690-1213

Q メーカーの技術が光る建材は何ですか？

A スマートルーバー

抜群の省エネルギーを網戸に

このスマートルーバーは網目が超微細なため、透過性が高いにもかかわらず、日射を全てカットしてくれます。当時、ROKIグローバルイノベーションセンター(浜松)という、森林エリアに建てる建築物を手掛けており、建築に合った虫除けの網戸を探していました。そんなときに偶然見つけたのが、このスマートルーバーでした。例えば、ブラインドだと向こう側が見えなくなりますよね。でもスマートルーバーだと、一つひとつの網目が超微細だから向こうの景色が透けて見える。だから網戸として使用できるのではないかと思います。これはもともと内壁側に取り付けられるものなのですが、それだと熱や日差しが室内に伝わって室温が上昇してしまう。だから熱や日差しを外に取り付けて、熱も日差しもカットできるようにしました。このスマートルーバーはイギリスの製品なので、ニューストさん(木とアルミの複合断熱カーテンウォールのメーカー)に仕入れを頼んでアルミサッシを付けてもらいました。それがROKIさんの空間によく馴染み、従来の網戸にはない上質な雰囲気を演出できるんです。外観から機能性まで抜群な、素晴らしい建材だと思います。

Q 今までに出会った特殊な建材は何ですか？

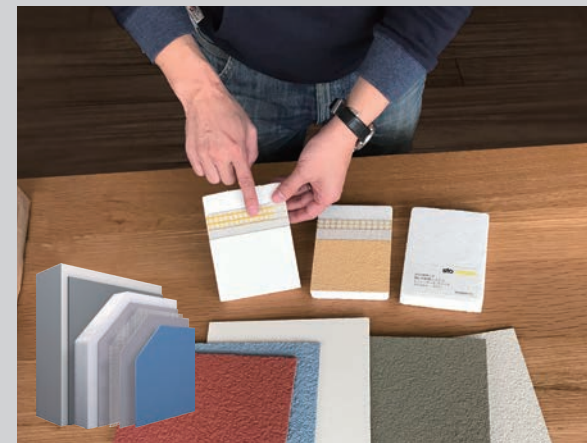
A エステックウッド

外でも腐りにくい天然木

江間忠木材さんのエステックウッドは、天然木で薬剤を一切使用していないのに腐りにくいのがいい。その秘密は加工にあって、窒素雰囲気下(窒素ガスで満たされた状況)で木を熱処理しているからなんです。木が腐る原因には、「栄養素」と「水分」が関係しているのですが、エステックウッドは熱処理をすることで、その2つの要素を木から限りなく減少させています。木材中の水分を保持している「栄養素」を熱処理で分解し、それにより栄養素が保持していた「水分」を減少させているんです。だから腐りにくい。そのうえ、風合いも良い。僕はアッシュのデッキ材が個人的に好きで、エステック加工をするすと雰囲気のある茶色になるんですけど、それがまたすごく好みます。僕はこれで事務所のペランダにウッドデッキを造ったんですけど、すごく気に入っています。無垢のデッキも個人的にはすごく良いのですが、無垢を外で使うと、やっぱり腐ってしまう。だけど、このエステックウッドは外で使っても腐りにくいのがいい。特殊な技術が詰まったエステックウッドを今後も使っていきたく思います。



江間忠木材株式会社
〒104-8551
東京都中央区晴海3-3-3
TEL 03-3533-8211 FAX 03-3533-8220



StoJapan 株式会社
〒102-0093
東京都千代田区平河町2-11-1平河町ロンステート1F
TEL 03-5216-1530 FAX 03-5216-1760

Q 今までで一番コスパが良かった建材は何ですか？

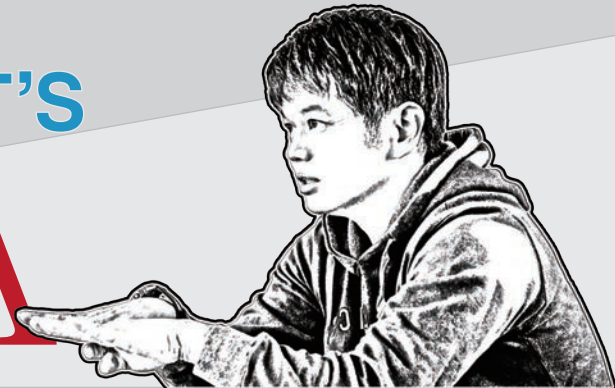
A StoThermClassic (外断熱システム)

デザインと環境性能の両立

このStoJapanさんの外断熱システムは、断熱材に外壁の仕上げも兼ねられているのが特徴です(外断熱工法は、外壁仕上げは兼ねられていないのが一般的なので)。これ一つで断熱と外装の仕上げまで一貫してできるので、コストパフォーマンスも優秀。更に、施工性も高くして熱損失もないので、僕は住宅設計時によく使っています。それに、テクスチャーやカラーが豊富なのも良い。テクスチャーは6種類あって、どれも質感や温かみを感じる。カラーは800色もあるので、建築物のイメージをより実現しやすいのも嬉しいポイントですね。あとは、一般的にコンクリートでは、動いたときに割れてもいいように目地を作らなければならないのですが、この外断熱システムは目地が不要なので、シームレスでフラットな面ができる。それが結果的に、デザインの自由度の高さに繋がる。だからトータルで見たコスパの高さとして、見た目と機能性を兼ね備えつつ、施工が省略できるStoさんの外断熱システムは、とてもお薦めですね。

ARCHITECT'S

Q & A



モニター 建材

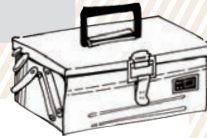
応募から始まる新たな繋がり



応募
締切

2019年2月28日(木)

応募者の中から厳正な抽選のうえ、ご当選者には編集部よりお電話またはメールにてご連絡させていただきます。
※当選に関するお問い合わせにはお答えできませんのでご了承ください。



新製品を中心とした無料のモニター企画

ご応募いただいた方の中から、抽選で製品をモニタープレゼントいたします。応募からはじまる新たな繋がりにどうぞ期待！

応募方法

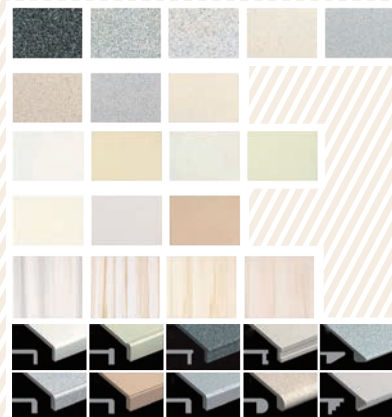
QRコードを読み取り、専用WEBページより必要項目をご記入のうえ、ご応募ください。
沢山のご応募お待ちしております！

01 ケンジュール

FUKUVI

切断、接着加工性に優れたソリッド材の人工大理石。豊富なカラーバリエーションで、自在なデザイン表現が可能です。たばこの火でも変質せず、メンテナンスも水拭きでOK。

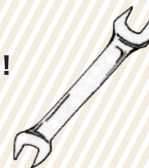
3
名様



- ご提供サイズ 600×900mm以内
- 施工案件場所 住宅・非住宅問わず
- 応募条件 詳細はQRコードにて



応募は
こちらから!



02

レースガラス

DGデザインガラス.COM



ほど良い目隠しと美しい採光を実現したデザインガラス。店舗・ショールームの内装や窓ガラスとして、これまでにないワンランク上のインテリアとしておすすめです。

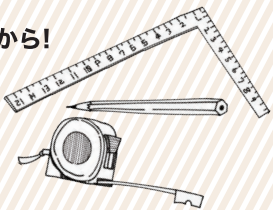
3
名様



- ご提供サイズ ① 5mm厚 850×1750mm
② 3mm厚 600×600mm
- 施工案件場所 住宅・非住宅問わず
- 応募条件 詳細はQRコードにて



応募は
こちらから!



03

切子風ガラス

OOKABE GLASS

江戸切子の伝統的な細工・文様をイメージしたデザインガラス。文様12種類に加え、ガラスも2種類からお選びいただけます。和室や和モダンな空間との相性も抜群。

1
名様



- ご提供サイズ 2000×2000mm以内
- 施工案件場所 住宅・非住宅問わず
- 応募条件 詳細はQRコードにて



応募は
こちらから!



モニター 建材の流れ

STEP1

QRコードからご応募



STEP2

当選通知がくる



STEP3

モニター用の建材が届く



STEP4

モニター開始



STEP5

レビュー・写真を送信



LOCAL 建材

和紙ソムリエ 杉原吉直 × 越前和紙
建材としての「和紙」



越前は、冷たく清らかな湧水に恵まれた地域。紙漉きに最適なその環境から、越前に和紙づくりが根付いたといわれる。



Yoshinao Sugihara

1962年福井県越前市生まれ。株式会社杉原商店代表取締役。世界中に和紙を普及すべく、お客様の要望に合った和紙を提案する「和紙ソムリエ」として活動。



数名の職人が声を掛け合い、皆で大きな和紙を漉く。



株式会社杉原商店 〒915-0235
TEL0778-42-0032 福井県越前市不老町17-2

“和紙×建材”の可能性

高度経済成長期(54~73年)、杉原商店は和紙の間屋として襖紙をメインに取り扱っていました。当時、襖紙の需要はとて高かったのですが、時代の変化に伴いその需要は徐々に低迷。和紙の売れ行きも陰りを見せる一方でした。そこで私はオリジナル商品の開発を決意したのです。ところが、売れ先を定めることなく製造してしまったため、初めはただ闇雲に売り込みを行っていました。そんなとき、知人からIPEC(インテリアの国際展示会)への参加を勧められ、出展することにしたのです。ここでは様々な建築家さんとの出会いがあり、これを機に仕事がどんどん増えていくようになりました。この体験により、私は“和紙×建材”の可能性を肌で感じる事ができたのです。

多様な職人から生まれる越前和紙

越前和紙づくりの特色は、複数の職人の技術を集結させて制作していることですね。中でも越前は和紙の産地として、とても規模が大きい。それは、他の産地と比べ職人の数が圧倒的に多いためです。そしてこの地には「紙漉き」だけでなく、「型作り」「裁断」「貼り合わせ」といった工程にも専門の職人が揃っている。だから越前では、紙漉きからパッケージという一連の作業が効率よくできるうえに、一般的に難しいとされる特殊な和紙も制作できるのです。例えば、長さ10mの巨大和紙、これは大型和紙づくりを得意とする職人が協力し、皆で息を合わせながら豪快に制作します。そういった多様な職人が集まる場所だからこそ“産地”となり、多面的な和紙づくりができるのだと感じています。

和紙の新しい姿

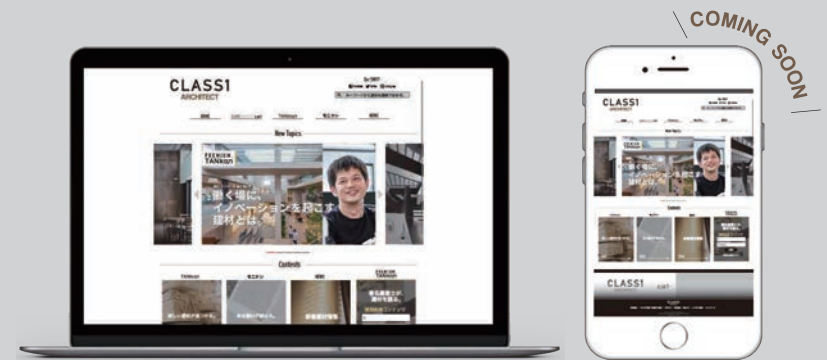
お客様から「和紙でこういうものを作れないか」と相談をお受けしたとき、その要望に合った職人に声を掛けます。こうしてお客様の要望と職人のマッチングを行うことが杉原商店の役割だと思っています。和紙とは襖や障子に使うもので、“現代ではあまり使い道がない”と思っている方も多いと思うのですが、実際は様々なデザインをつくる事ができる。それに和紙は光との相性も良く、演出の幅も広いので、世の中に定着しているイメージだけでなく、モダンで近代的な感覚が表現できる。そうした和紙の魅力を建築を通して更に伝えていければと考えています。そしてそれを見た建築家さんに、越前和紙の建材としての可能性を感じていただけたらとても嬉しく思います。



オーストラリアの日本食レストランで間仕切りとして使用された越前和紙。

CLASS1 ARCHITECT

建築士目線の選りすぐりの建材を閲覧できる 専門サイトを2019年夏リリース予定！



PCやスマートフォンからでも閲覧可能な「CLASS1 ARCHITECTデジタルブック」の配信ほか、建材をテーマとした“新しい発見”と“ワクワクする時間”をお届けします。

SPECIAL THANKS

Architect
小堀哲夫 様

Manufacturer

- 織部製陶株式会社 様
- 株式会社SHY 様
- 安東陽子デザイン 様
- 株式会社トニー 様
- StoJapan株式会社 様
- 江間忠木材株式会社 様
- 株式会社ニュースト 様
- 株式会社カドワキカラーワークス 様
- 株式会社杉原商店 様

Architecture

- NICCA イノベーションセンター 様
- ROKI Global Innovation Center 様

Photo

- 撮影：新井隆弘 様
- (表紙/4P/5P/6P/7P右/11P/12P)
- 撮影：株式会社 川澄・小林研二写真事務所 様
- (14P上)

NEXT CLASS 1

特集

都市部でのあり方を追求した集合住宅。 そんな建築物を支える建材とは…？

VOL.01のゲスト、小堀哲夫氏がバトンを繋いだ著名建築家を徹底取材します。次号のゲストもお楽しみに！

次号vol.02は
2019年春頃の
発行予定です

編集後記

CLASS1 ARCHITECTを最後までお読みくださり、ありがとうございます。本誌の始まりは、弊社代表の「建材専門のフリーマガジンをつくらう」の一声からでした。創刊号というゼロからの制作にはとても苦戦しましたが、経験も知識も少ない編集部4人があれこれと頭をひねらせ、「建材情報を届けたい！」という一心で、無事発刊することができました。これも、ひとえに関わっていただいた沢山の方々のお力添えがあったからだ実感しています。次号では、更にパワーアップした企画を盛り込んでいきたいと思っておりますので、今後ともCLASS1 ARCHITECTをどうぞよろしく願います(〃)

新鮮な空気と自然光でゼロエネルギー。

VELUX®



CLASS1 ARCHITECT Vol. 01

Produced by OOKABE Creations

発行元 / OOKABE Creations 株式会社
〒910-0851 福井県福井市米松2丁目24-8 TEL:0776-54-4557 FAX:0776-54-4566

VELUX 日本ベルックス株式会社

東京都渋谷区千駄ヶ谷1-23-14
TEL 0570-00-8141
FAX 0570-00-8142
<https://www.velux.co.jp/>